

聖イグナチオの生き方にみる 人とのつながり ～ 希望の扉を開くために

2021年11月23日(火) 11:00～11:50 担当 柴田神父

追加資料 待降節黙想会なのに、待降節の聖書箇所を取り上げていなかったの

ギリシア語のディエタラクテエ

ルカ1:29 「マリアはこの言葉を聞いて、胸騒ぎがした」「この言葉に戸惑った」

「胸騒ぎ」(ギリシア語でディエタラクテエ)は、非常に強い言葉です。お告げの場面で使ったのは驚くべきことです。この言葉は、神様が示す新しい世界に接して、マリアさまが受けた衝撃の大きさを表現しています。

他に同じ言葉が使われている箇所：マタイ2:3「ヘロデのろうばい」「ヘロデは不安を抱いた」

『人々と共に歩むマリア』より カルロ・マリア・マルティーニ・著、吉向キエ・訳 女子パウロ会 1993年(一部表現を変えています)

マリアとヘロデは同じ「ディエタラクティエ(強い不安を抱えた)」の状態になりました。

でも、その後の行動は対照的です。

マリアは「お言葉通りこの身になりますように」と神の計画(神の国の実現)を受け入れます。

ヘロデは「ベツレヘムとその周辺一帯にいた2歳以下の男の子を1人残らず殺させた」。つまり神の計画(神の国の実現)を徹底的に拒みます。

私たちの人生でも「ディエタラクティエ」の状態が起きます

「こんなこと私が引き受けられるだろうか？」

「できれば、他の人にして欲しい」

「どうして私なの？」

このような体験の時に、どのように選択したらいいでしょう？

具体的な識別で悩むところ

「自分は身を引きたい」

「あの人さえいなければ・・・」

「代わりがない」

「誰もしなくなったら困る人がいる」

「でも自分は続けられるだろうか？」

「どうしたら打開できるだろうか？」

「次の機会のためにエネルギーを蓄えた方がいいだろうか？」

ということで悩んでいないでしょうか？ 今回の黙想会で考えましょう。